

宮城県観光復興対策実施計画 評価調書

別紙

都道府県名	宮城県	計画に包摂される市町村	塩竈市, 気仙沼市, 白石市, 名取市, 登米市, 栗原市, 東松島市, 大崎市, 蔵王町, 七ヶ宿町, 大河原町, 村田町, 柴田町, 川崎町, 丸森町, 亶理町, 松島町, 七ヶ浜町, 涌谷町, 女川町, 南三陸町					
計画期間	平成28年度～令和3年度	評価責任者	宮城県経済商工観光部参事兼観光政策課長 柳澤 宏					
計画の成果目標(定量的指標)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考
指標①	外国人延べ宿泊者数	19万7千人	24万8千人	31万4千人	39万6千人	50万人	50万人	R3年度目標値はR2年度から据え置き
指標②	外国人旅行消費額	66.8億円	84.3億円	106億円	124億円	145.1億円	145.1億円	

1 定量的指標に関連する交付金事業の効果の発現状況	宮城県の外国人延べ宿泊者数の増加(H27:16万1千人→H28:17万5千人→H29:25万2千人→H30:36万4千人→R1:53万4千人→R2:12.2万人→R3:3.6万人【観光庁:宿泊旅行統計調査より】) 宮城県の外国人旅行消費額の増加 (H27:81.7億円→H28:52.6億円→H29:100.5億円→H30:199.2億円→R1:439.7億円→R2:70.5億円→R3:0円【観光庁:共通基準による観光入込客統計より】)					
2 定量的指標の達成状況	指標① 外国人延べ宿泊者数	目標値	50万人	目標値の実現状況に関する評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための渡航制限等により、外国人延べ宿泊者数の実績値は令和3年に3.6万人となるなど、コロナ流行前である令和元年の53.4万人から大きく減少した。	
		実績値	3.6万人			
	指標② 外国人旅行消費額	目標値	145.1億円	目標値の実現状況に関する評価		外国人延べ宿泊者数と同様、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う渡航制限等により、外国人旅行消費額についても、令和元年の439.7億円から大きく減少し、令和3年の消費額は0円と算定された。
		実績値	0円			
3 事業の進捗状況	新型コロナウイルス流行前の令和元年までは、ターゲットの特徴を踏まえたプロモーションや地域資源の磨き上げをはじめとした事業を着実に進め、外国人延べ宿泊者数及び外国人旅行消費額は毎年増加するなど、一定の成果を得られた。一方で、感染症の影響を受けた令和2年度事業については、半数以上の事業を令和3年度に繰越して実施した。当初想定していた内容での事業実施が困難な中でも、デジタル技術を活用したプロモーション等、オンラインによる効果的な情報発信を行ったほか、在日外国人によるモニターツアーや商品造成等、外国人観光客の受入再開に向けた受入環境整備や滞在コンテンツの充実・強化に取り組んだ。					
4 評価方法	宮城県の「行政活動の評価に関する条例」に基づく政策・政策評価による。					
5 評価の公表方法	県のホームページにて公表する。					
6 計画全体の総合評価	本観光復興対策実施計画では、東北観光復興対策交付金を活用したコンテンツ造成と受入環境整備、戦略的なプロモーションを連動させながら取り組み、東北が一体となったプロモーション活動などにより、令和元年には、仙台空港発着の国際線便数が増加したことが支えとなって、外国人延べ宿泊者数及び外国人旅行消費額の目標値を1年前倒しで達成し、目標を大幅に上回る実績となった。一方で、令和2～3年は国内外の渡航制限等により、外国人旅行者の受入がない状況が続き、目標値を達成することはできなかった。しかし、コロナ収束後の誘客に向けた認知向上のため、WEBサイトやSNS、オンラインイベント等を通じた情報発信を実施したほか、多言語サイト・看板の整備やインバウンド向け商品の造成等、ハード・ソフト両面での受入環境整備に取り組み、外国人観光客の受入再開に向けた魅力ある観光地づくりを進めることができた。					
7 今後の方針等	本観光復興対策実施計画においては、計画期間最終年度である令和2～3年度に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、想定していた事業内容を十分に実施できない状況であったが、オンラインでの情報発信やハード・ソフト両面での受入環境整備、インバウンド向けの商品造成など、制限下においてもアフターコロナを見据えたプロモーションや受入環境整備等を進めることができた。令和4年6月から外国人観光客の受入が開始された中で、外国人観光客から選ばれる地域となるよう、引き続き、東北各県など近隣の自治体等と連携しながら、情報発信や受入環境整備の取組を強化していく。					